

もしもの時に備えて

予防接種費用助成のご案内

带状疱疹予防接種【2026年3月31日(火)接種分まで】

<定期接種>

▶**対象者** 過去に带状疱疹ワクチンの公費助成を受けておらず、次のいずれかに該当する方

- ①2025年度中に65、70、75、80、85、90、95、100歳になる
- ②2025年度に限り101歳以上
- ③60～64歳でヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害があり、身体障害者手帳1級を所持

▶**接種回数、接種費用(自己負担額)**

種別	生ワクチン	不活化ワクチン
接種回数	1回	2回
接種費用	2,000円	6,000円/回

※生活保護受給者は接種前の申請で無料
 ※不活化ワクチンは1回目と2回目の間を2カ月あけるため、2026年1月31日までに1回目の接種が必要

▶**接種方法** 協力医療機関に予約して接種

▶**持ち物** ①定期接種対象者証

②本人確認書類③接種費用

▶**その他**

・対象者には「定期接種対象者証」を送付します。紛失時は、健康増進課または各振興局市民福祉課で再発行手続き(本人確認書類必要)



<任意接種>

▶**対象者** 過去に带状疱疹ワクチンの公費助成を受けておらず、接種日時時点で満50歳以上かつ、2026年3月31日時点で60歳以下の方

▶**接種回数、助成費用**

種別	生ワクチン	不活化ワクチン
接種回数	1回	2回
助成費用	4,000円	1万円/回

※不活化ワクチンは1回目と2回目の間を2カ月あけるため、2026年1月31日までに1回目の接種が必要

▶**自己負担額** 医療機関設定の金額から助成費用を引いた額

▶**接種方法**

- ①次のいずれかの方法で事前に申請
 - ・市ホームページからオンライン申請
 - ・健康増進課に電話
 - ・健康増進課・各振興局市民福祉課の窓口に来庁
 - ・健康増進課へ申請書を郵送
 - ②協力医療機関に接種予約
 - ③交付された対象者証を協力医療機関に提出し、接種
 - ④医療機関の窓口で助成後の金額を支払い
- ※市外で接種した場合、後日償還払いにより返金(事前申請は必須)



成人用肺炎球菌予防接種

▶**対象者** 過去に肺炎球菌ワクチンの予防接種を受けておらず、次のいずれかに該当する方

- ①65歳
- ②60～64歳で、心臓・腎臓・呼吸器の機能に日常生活が極度に制限される障害がある、またはヒト免疫不全ウイルスにより免疫の機能に日常生活がほとんど不可能な障害がある

▶**接種費用** 4,700円

※市民税非課税世帯・生活保護受給者は接種前の申請で無料

▶**接種方法** 事前に協力医療機関へ予約し、対象者証を持参し接種

▶**その他**

- ・65歳の対象者には誕生月の翌月に対象者証を郵送
- ・2024年度に65歳になった方は、66歳の誕生日前日まで定期接種の対象
- ・対象者証紛失時は、健康増進課または各振興局市民福祉課で再発行手続き(本人確認書類必要)

聞こえの不安、一人で悩まずに相談を

補聴器購入費用を助成します

聴力は、年齢とともに徐々に低下していきることがあります。聞こえにくさが進むと、周りの人とのコミュニケーションが億劫になり、外出や人との交流を避けるようになる方もいます。早めに適切な対策をすることで、生活の質を向上させ、また認知機能低下を防止することができます。

5月1日(木)
受付開始

- ▶**対象者** 次の全てに該当する方
 - ▷市内に住民登録がある18歳以上
 - ▷聴覚障害による身体障害者手帳交付の対象とならない
 - ▷聴力が両耳共に40デシベル以上
 - ▷耳鼻咽喉科の診断を受け、補聴器の必要性を認める証明(医師意見書)を受けた
- ▶**補助の対象**
 - ▷補聴器本体のみ
 - ▷認定補聴器技能者または言語聴覚士による調整を受けた補聴器
- ▶**助成内容** 3万円を上限に助成(1人1回限り)
- ▶**申請手続きの流れ**
 - ①社会福祉課、高年介護課、各振興局または市ホームページから必要書類を入手

- ②申請書と添付書類を提出
- ③「豊岡市補聴器購入費助成決定通知書」の内容を確認し、補聴器を購入
- ④助成金請求書と添付書類を提出
- ※申請前に購入した補聴器は助成対象外
- ▶**添付書類**
 - ▷申請時 医師意見書(市の指定様式)・補聴器の見積書・補聴器の医療機器認証番号が分かる書類
 - ▷請求時 領収書(宛先が助成対象者)・振込先口座の分かるもの(助成対象者名義)



《問合せ・提出先》

- 18歳～64歳の方 社会福祉課 ☎24-7033
ファクス24-4516
- 65歳以上の方 高年介護課 ☎29-0055
ファクス29-3144

高齢者の方は特に要注意

熱中症は予防が大切です

熱中症は、例年5月頃から増加し、室内での発症も少なくありません。重症化すると死に至る場合もあるので、十分な予防対策が必要です。2024年の救急搬送状況では、高齢者が約6割を占め、発生場所は約4割が住居となっています。

《問合せ》健康増進課 ☎24-1127

【熱中症の症状】

〈症状〉

- ・めまい、生あくび、大量の発汗、筋肉痛
- ・病状が進むと…頭痛、嘔吐、だるさ、集中力・判断力の低下

〈対応方法〉

- ・涼しい場所に移動する
- ・衣服をゆるめ、体(首や脇、足の付け根など)を冷やす
- ・水分・塩分、経口補水液を補給する

※症状が改善しない場合は、医療機関を受診してください。

【熱中症予防のポイント】

- ・暑さに備えた体づくり(十分な睡眠とバラ

ンスの良い食事、適度な運動)

- ・扇風機やエアコンで温度をこまめに調節
- ・遮光カーテン、すだれ、打ち水を利用
- ・外出時には涼しい服装で日傘や帽子を使用
- ・吸湿性、速乾性のある通気性のよい衣服の着用
- ・保冷剤、氷、冷たいタオルなどで体を冷やす
- ・のどの渇きを感じる前からこまめに水分補給

【熱中症に対する警戒情報】

熱中症の危険性が極めて高くなると予測される場合は、警戒情報が都道府県ごとに発表されます。テレビやラジオ、天気予報サイト等で知ることができます。確認して予防行動を取ってください。